デジファブ技術活用

国際コンペ受賞作品を決定

コクヨ

コクヨ株式会社（黒田英邦社長、大阪市）は、デジタルファブリケーション技術を活用した建築・家具のデザインを募集する国際コンペティション「Digi Fab Award 2025 by KOKUYO × VUILD」グランプリ1作品、優秀賞2作品、佳作5作品を決定した。

「Digi Fab Award 2025」は、今年初開催のデジタルファブリケーション技術を活用した建築・家具のデザインを募集する国際コンペティション。コクヨと、建築系スタートアップVUILD（ヴィルド）が共催し、国内外で活動する建築家やクリエイター、学生を対象に、公共空間に設置可能な建築と家具の領域を横断するデザイン募集を行った。

今年のテーマは「Personal and Public」。一人の「私」は、さまざまなものと関わりながら、常に変わりつづけている。その「私」を豊かに味わいながら、周りとの新たな関わりを生み出していく。そんな「Personal」な側面と「Public」な側面を兼ね備えたデザインを募集し、国内外26カ国から合計143点の作品が集まった。

グランプリ作品は11月18日から4日間の期間限定でコクヨ品川オフィス「THE CAMPUS」に、また、10月17日から約1カ月間ヴェネチアのヨーロッパ文化センター「Palazzo Mora」で展示された。

グランプリ作品

空間デザインが国際的評価

また、同社は、コクヨの空間デザイン「SPARX Guest Area and Lounge」において、世界的に権威あるドイツのデザイン賞「2025年レッドドット・デザイン賞」を受賞した。

「2025年レッドドット・デザイン賞」にコクヨの空間デザイン「SPARX Guest Area and Lounge」を応募し、同アワードの審査により、ブランド&コミュニケーションデザイン部門で優れた作品として評価を得た。

1/3ピッチシリーズ

店頭陳列コンテスト

LIHIT LAB.

グランプリなどが決まる

株式会社LIHIT LAB.（田中宏和社長、大阪市）は、第14回「L―1グランプリ1／3インチピッチシリーズ　店頭陳列コンテスト」を開催していたが、このほど結果を発表した。

グランプリ＝文教堂書店札幌ルーシー店（北海道札幌市）。

準グランプリ＝カメヤBOOK宇土シティ店（熊本県宇土市）、つちや文具スパー事務キチ岐阜店（岐阜県岐阜市）。

優秀賞＝アダチ類家店（青森県八戸市）、うさぎや岡山店（岡山県岡山市）、うさぎや倉敷店（岡山県倉敷市）、岡書帯広イーストモール店（北海道帯広市）、キャンパス防府店（山口県防府市）、シモジマ浅草橋本店（東京都台東区）、ナガサワ文具センター（兵庫県神戸市）、虹の文具館（山口県光市）、浜書房港南台バーズ店（神奈川県横浜市）、平林紙店（北海道室蘭市）、文教堂書店新札幌DUO店（北海道札幌市）、文教堂書店平岸店（北海道札幌市）、丸善獨協大学ぶっくぎゃらりぃDUO店（埼玉県草加市）、ラビックス（埼玉県朝霞市）、レオランドぶんぐ館by LIONDO（宮崎県宮崎市）、文具のしんぷく本店（鹿児島県鹿児島市）、文具用品店かがしや中津店（大分県中津市）、ボイス（岩手県北上市）。

グランプリに輝いた文教堂書店札幌ルーシー店の陳列

アートコンテスト受賞作品発表

○…三菱鉛筆

三菱鉛筆株式会社（数原滋彦社長、東京都）は、オフィシャルパートナー契約を締結している一般社団法人障がい者自立推進機構（松永昭弘代表理事）と共催の第4回アートコンテストの結果を発表した。

同コンテストは、「自分らしさ」で、「生まれながらにすべての人がユニークである」という同社の信念に基づき、一人ひとりが持つさまざまな違い、「自分らしさ」をテーマに自由に表現したアートコンテスト。

最優秀賞の「ダンディー酒井」

149の応募作品から、最優秀賞に「ダンディー酒井」（田尻はじめさん）をはじめ、優秀賞（2作品）、POSCA賞（5作品）、EMOTT賞（5作品）、uni賞（20作品）など、受賞33作品が選出された。

HAGURUMA

デザインコンペ受賞作品を発表

○…シヤチハタ

シヤチハタ株式会社※（舟橋正剛社長、名古屋市）が特別協賛する新しいプロダクトのデザインを募る「第18回シヤチハタ・ニュープロダクト・デザイン・コンペティション」の表彰式が10月10日に都内で開かれ、グランプリ1作品（賞金300万円）「ライン印」（品田聡氏）、準グランプリ2作品（賞金50万円）、審査員賞5作品（賞金20万円）の受賞作品9点を発表。

今回は、「つながるしるし」をテーマにアイデアを募集。過去最多となる1681件の応募があった。

グランプリの「ライン印」

白石常任理事

黄綬褒章の受章のお祝いも

○…大紙工定例会

大阪紙製品工業会（黒田章裕会長）の11月定例会が、11月13日午後1時30分から大阪市中央区の文健会館会議室で開催、役員報告や今後の行事予定などを報告した。

開催に先立ち、黒田会長は、「私事だが、経営の要職から離れて10年が経過する。この10年を振り返ると経営環境が大きく様変わりしたと実感する。特に事業領域を拡大するための海外での取引環境は、大きく変わっている。この様な状況のなかで大阪・関西万博が開催され、成功裡に終了した訳だが、多くの海外の人達との交流が行われて大変意義深いものがあっと感じている」と挨拶。

審議の前に、今春の褒章で黄綬褒章を受章した白石元宏常任理事に黒田会長より会員一同からの祝い金が贈呈された。

この後、役員報告として、志方弘嗣副会長より正副会長会議、全紙工第2回常任理事会の報告、事務局・寺村聖一専務理事より文紙メッセ2025の結果報告と、同2026年の進捗状況を報告。

この他、同会が当番団体となる明年の新年祝賀会（1月5日）への役割分担などの協力を求めた。

この他、今後の行事予定そして12月19日に年末懇親会（帝国ホテル）、来年2月に第301回歩こう会、4月14、15日の1泊2日の日程で第77回定時総会などが発表された。

黒田会長㊨より白石常任理事にお祝い金を贈呈

ササガワ

賞状文化の魅力発信

第2回賞状コンテストを実施

株式会社ササガワ（笹川敦司社長、大阪市）は、第2回「思い出の賞状コンテスト」を11月1日から来年1月31日まで実施している。

明治27年（1894年）創業の同社は、賞状のトップメーカーとして、時代を超えて人々の「伝えたい想い」に寄り添ってきた。賞状を手にすると、これまでの努力や、褒められた記憶、感謝された出来事など、多くの思い出がよみがえる。同社では、人が人を称えるとき、その一枚一枚の賞状に込められた想いがあるとして、賞状の魅力をより多くの人に伝えることを目的にコンテストを開催している。

応募方法は、これまでにもらった賞状を撮影し、応募フォームに必要事項を入力のうえ、賞状画像を添付して特設ウェブページから応募する。

応募者の中から、デザイン賞、エピソード賞、レア賞、キッズ手作り賞の4部門で各1名に賞状と副賞3万円を贈呈する。このほか、ラッキー抽選賞（5名）や参加賞（100名）も用意している。

なお、同社の特設サイトでは、第1回コンテストの分析結果を好評公開、好評を博している。

KOKUYO

貼るって、こんなに変われる。

GLOO